あだたら
第428号
発行所
郡山市喜久田町
あだたら山の会

六月十六日（日）

登山教室（実践）安達太良山

報告・□□□□

奥岳集合写真（カメラマン入れて９名）

六月十六日八時、奥岳レストハウス集合。総勢九名、うち一人が札幌から参加八十一歳女性、□□さん、夏は毎週末どこかに登ってるという強者。もう一人は仙台からの参加六十八歳男性、□□さん、人生初登山。

八時半出発。コンパスを使いながら地図を読む、この技術を使えるようになれば、方向音痴は治るのでしょうか？と、思いながらの、山の会な山行、とても勉強になりました。往復ゴンドラ使用と安心していましたが…。避難小屋（お昼休憩）、シャクナゲ塔、西向き地蔵の周りの草刈り、そして最後に　船明神へとおすすめを受けましたが、片道三十分、急いで行けばゴンドラ最終までには乗れるから大丈夫！との言葉を聞きましたが、私はご遠慮しました。しかし、その言葉を信じて健脚三人組（□□さん、□□さん、□□さん）が向かいました。私たち下山組が降りてから、十五分後の十六時十五分頃にはゴンドラから降りて来た。皆様、どれほど急いだのでしょうか？

境だんを見ながら江戸時代を、シャクナゲ塔を見ながら戦前を、西向き地蔵を見ながら、明治時代の口減しとして、逃げ場のない我が身を嘆きながら、生まれ故郷に思いを馳せた女性たちの身の上を思い、心と身体を使いまくった一日でした。遠いところから、わざわざ安達太良山のためにお越しくださったお二方にも、大変満足していただけました。

※コロナ前から登りたいと言ってくださってましたが、道案内ができないからと断り続けていました。今回、安全に参加させていただき、二人の希望も叶えてあげられて、とても嬉しいです。山の会に感謝します。ありがとうございました。

●編集部連絡先
二本松市郭内一－五－五
０２４３（２２）４２４５
ＦＡＸ可・渡辺　正

【　編集部から　】

頂いた原稿に一部追加させて下さい。説明不足でした。

▼一つは「石楠花の塔」建立時期、航空事故は昭和三十三年十二月、塔の建立は昭和三十五年五月でした、共に戦後です。

▼もう一つは　鉄山麓に温泉小屋があった時期についてです。

鉄山麓に湯小屋があったのは、文政七年八月、幕末迄でした。明治期には温泉場は遠くなり、女性達は故郷しのぶためでも此処まで来れなかったと思います。

蛇足だったかも。

安達太良山頂

鉄山山頂

馬の背に下る

牛の背

西向地蔵に辿り付いた

船明神山頂

石楠花の塔

1977年頃の西向地蔵、木は全く無い
猪苗代町史、自然編から

西向地蔵参道草刈り中
正面磐梯山、石楠花の塔も

参道の手入れ

七月七日（日）

篭山下登山道整備（二回目）

報告・□□□□

勢至平分岐

奥岳登山口に八時集合、参加者は□□□□□さん、□□□□□さん、□□□□さん、□□□□さん、□□□□さん、□□□□さん、□□□□さん、□□□□□さんに私をめて九名である。この日のてんくらは「C」、麓の天気は曇りのち雨の予報であったが、朝の奥岳の天気はそれほど悪くなく青空も見えていた。雲の流れが早いのでたぶん山頂付近は強風かもしれない。篭山下までなら林の中なのでさほどは問題ないと思われるた。八時十分登山開始、鳥川橋で最初の休憩を取る。ここからは旧道を登り、八ノ字に至る最後の旧道は通らずに馬車道の方を登った。九時三十分八ノ字で小休憩、十時に勢至平分岐に到着した。ここで水分補給を行い目的の篭山下登山道に入る。篭山下登山道の下の方は刈払いした後が残っていて歩き安くなっていた。十時三十分、標高一三九〇m地点の開けた場所に到着した。天候も悪くない、開けた場所ではときどき風も吹くが作業には全く問題ない。ここに荷物を置いて草刈りの道具、貴重品、水分だけを持ちさらに上を目指した。昼食時にはまたここまで降りてくる予定である。十一時、篭山の北、標高一四五〇の地点に到着。このあたりをハンノキ林と言うらしい。この地点には峠の辻経由の山頂方向と勢至平経由の奥岳登山口方向を示す道標があるのだが、道標の柱には「峠の辻分岐」と書いてある。ここは分岐でもなんでもなく峠の辻まではまだ五百mもあるのだ。きっと何かの間違であろう。何はともあれここから刈払の作業を開始した。下山しつつ下草刈や通行の障害となる木の枝を切り取るのだ。作業途中、山頂方面から下山してきた登山客の話を聞くと、山頂は吹き飛ばされるような強風だったそうである。我々は約一時間程作業し、十二時十五分、荷物を置いた地点まで下山して昼食を取った。十三時十五分から午後の作業を開始した。荷物を持って下山しながら刈払を行うのだ。途中、大きな水たまりとなっている所には土嚢を設置した。十四時三十分ようやく勢至平分岐に到着した。ここで本日の作業を終えて休憩を取ることにした。休憩中、くろがね小屋方面から下山してくたグループの中の童女（小学校中学年～高学年くらい）が顔を強く抑えているのを見た。よく見ると血が出ている。急に鼻血が出たらしい。ここで休んで行くように声をかけベンチに座らせた。しばらくすると出血も治まってきた。童女のグループが再出発するのを見届け、我々も下山を開始する。下山途中、登山道の付近の石塔や石仏について先輩方から説明を受けた。ただ歩いてるだけでは見過ごしてしまいそうなものだ。実際私は何度も通っているにもかかわらず何も知らなかった。最初に立ち寄ったのは、勢至塔と書かれた石塔である。「勢至平」の名の由来となった石塔らしい。勢至とは勢至菩薩の勢至である。石塔には賽銭もおかれているので、今でもおとずれる人はいるようだ。この付近は旧道が通っていたらしく現在では湯道となっている。ここから次に向かう婆ヶ前まで以前は旧道を歩いて行けたとのことであるが、完全に藪漕ぎでしか行けない状態である。石塔周辺の草刈りをして、現在の馬車道に戻って下山することにした。八ノ字からは登ってきたときと同じ馬車道の方を下山することにした。馬車道の近くに先ほど書いた姥ヶ前（ババアガマエ）という場所があるのだ。馬車道から姥ヶ前に入るところも見落としてしまいそうな所で注意していないと通り過ぎてしまう。馬車道から狭い階段がある左側の土手を登っていくと少し開けた感じの場所に出る。ここに姥神の石造と勢至塔と首無地蔵（明治の廃仏で壊されたらしい）ともう一塔の何かが祀られていた。後でわかったことだが最後の一つは南無阿弥陀仏塔とのことだ。ここは修験者にとって現生とあの世を分ける境界と聞いた。安達太良山が霊山としての一面を持っているということだ。ここの姥神の顔は笑っているように見えた。詳しいことはわからないが他の場所の姥神像と同じように長い間ずっとここを通る旅人を見守ってこられたのであろう。今では馬車道から外れてしまっているが、これからもずっと登山客を見守っていただけるように般若心経を唱えさせていただいた。姥神に別れをつげた後は旧道（姥ヶ前を通る旧道ではなく今の旧道）を下山して十六時に鳥川橋に到着した。鳥川橋からさらに登山口を目指すと、ゲレンデの近くの地蔵平という所に至る。右側に大きな岩が見えるところから土手を少し登ると地蔵菩薩が祀られている。この地蔵も明治の廃仏の被害に会って首が無くなっていたのではあるが、今はいちおう首が付いている。しかしこれが胴体とは全く合わない黒い顔で上を向いている。本来の地蔵様の顔とは思えないような姿で残念であった。安達太良山の石仏については□□□さんのブログや山と渓谷、一九八六年八月号に詳しく書かれていて帰ってから読み直した。六月十六日の登山教室で出会った鉄山の西向地蔵といい、今回の体験といい安達太良山が昔からの信仰の山であったということを改めて思い知らされた一日であった。十六時三十分、全員無事下山して解散。

奥岳登山口

「峠ノ辻分岐」は誤り

個人山行
六月八・九日、ヒメサユリ咲く田代山
十六日、オノエラン咲く安達太良山
報告・□□□□□

（9日）、田代山のヒメサユリ

（9日）、田代山のヒメシャクナゲ

会山行六月九日田代山山開き、私は前日南郷のヒメサユリを見る為、八日の午後出発する。南郷スキー場で見頃となっていたヒメサユリやニッコウキスゲを見、（午後）六時田代山登山口の駐車場へ。途中風呂でも考えたが、明るい内に行きたいと考え直す。田代山駐車場七時。既に半分以上、次から次へと車が入ってくる。早く来て良かった。

（翌朝）朝五時には既に満車。六時前に係員が来て車の誘導を始める。七時まで待っていて、記念品を貰い入山する。今回の目的はヒメシャクナゲ、オサバグサ見る事だ。満開を見る事が出来、大満足の山開きの関係者の話によると、今年例年より早いとの事、山の会の人達と会う事が出来なかったが良い思い出になった。

◆　◆

今年は高山植物の花が早い様だ、安達太良のオノエランも咲き始めて居ると思い、六月十六日八時四十五分入山する。駐車場は多くの車、その中に会長の車見付け会の登山教室かと思い会長へ電話、今手伝う事があるかと聞くと、特にないという。馬車道を登り勢至平ではレンゲツツジ見る事が出来くろがね小屋へ、途中からくろがね小屋へ下山して来る人が登山道から外れているのを見る。立ち止まり見て居ると登り返しているのを確認、小屋へ行く。スマホで小屋や鉄山を撮って居る。先程写真を撮るため登山道から外れたのかと聞くと、道から外れ戻ったとの事、くろがね小屋を見に来たとの事。私と別れ湯樋を下ろうとしている。行く事が出来ないと声を掛けると前を見て「通行止めだ、又間違えた」と話し、馬車道を下山して行った。

くろがね小屋上も登山道に松やドウダンの枝がはみ出している。所々に赤テープを見付けて登る。ガレ場を登り切るとオノエランを見付ける。峰ノ辻までの間に三～四株見付け、見頃の時に来たのではないかと思いウキウキ。十二時三十分峰ノ辻、記念写真を撮り昼食タイム、私のいつもの定食ラーメンと食パンである。三十分程休みオノエランをカメラに収め、矢筈ケ森までと思い、途中まで行くと空の雲行きがあやしくなって来たので、下山を決意し、篭山ルートを下山する。道路にみ出している枝が多く登山道整備にいま少し、道幅を広く刈らないと毎年幅が狭くなってくると思う。又勢至平のレンゲツツジ群生地も廻りの雑木が大きくなり、群生地で無くなってしまうのではないか？。四時少し前に下山、車にいると、会長より電話、登山教室で下山。ゴンドラ降りた所との事、皆さんに会いに行き、解散式に参加、帰宅する。

（16日）、峰ノ辻

（16日）、峰ノ辻・オノエラン

六月三十日（日）
個人山行、一切経と家形山
報告・□□□□

一切経山頂

家形山からの五色沼（魔女の瞳）

今日は夕方から天気が崩れるという予報、朝七時家を出る。兎平駐車場八時前、十台くらいの車、八時十分入山届けを出す。浄土平からハクサンシャクナゲが咲き酸ケ平小屋まで見頃だった。又イワカガミなども残っている。今日は日曜日とあって多くの登山者、まるで山開きの様だ。酸ケ平小屋で休憩、一時間ほどかかる。一切経山頂十時十分、約二時間掛かった。山頂で若いカップルとお互いに記念写真を撮って頂く。一切経より魔女の瞳をカメラに収め時間早いし天気も暑くもない風も無い、眺望も良い　久しぶりに家形山まで行くと妻へ電話する。一切経までは多くの登山者いるが家形山への一切経からの下りになると何と一人旅、家形山までの行きに郡山から来たという七十歳台の男性、その後若いカップル一組だけ。私を追い越した若者二人、山頂へ着いたときは既に昼食タイム、家形山山頂十一時十五分、食事中お願いし記念写真を撮って貰う。久しぶりに見る家形山からの魔女の瞳、カメラに収め、昼食タイム。二人の若者達は下山していき静かな一人の山頂を楽しむ、家形山から見る五色沼と一切経、これが最期かなと思い、十二時家形山を後にする。一切経へ登りジャリで滑り休み休み登る。後から大きなザックのカップルに追いつかれる。話を聞くと昨夜明月荘泊まり早立ちし西吾妻まで行って来たとの事。　小屋には十人位の泊り客がいたそうだ。一切経山頂で別れ一人下山、登って来る人も少なく午前の賑わいが嘘の様だ。小屋でトイレ休憩、鎌沼を廻り下山しようと木道を少し進むと雨がポツポツ。引き返し浄土平へ下山、兎平駐車場へ三時に。駐車場も濡れていない。兎平キャンプ場には二張張られていた。帰り木の根坂当たりから雨となったが無事帰宅する。

編集後記　四二九号

◆七月二十八日民報「みんなの広場」□□□□さん投稿「備えの大切さ心に刻んで」。

◆今年は「きょうも危険な暑さ、熱中症対策を」という　文句を聴かない日は無い。三十五℃以上の「猛暑日」当たり前になっている。例年は、梅雨の時期に心の準備して、梅雨が明けて「本格的な」暑い夏が来て、きれいに晴れて、三十℃以上の「真夏日」が来た。今年は心の準備できないうちに暑くなって、長く続いている。そんな日に、皆さんから頂いた原稿、写真を見つめて、並べ方考えて、一途に会報を作っていた。ところが今日三十一日は朝九時過ぎから強いにわか雨、日射しが無いと当たり前だが涼しい。扇風機もいらない。室温は二十八・四℃。例会は明日。会報は最期の仕上げだ。二十五℃以上の熱帯夜は続くだろうが。

◆今年暑いせいか、樹木の葉っぱの茂りが烈しい。例年そんなに葉っぱを付けない枝も、よく茂って、多すぎて重くて、垂れている感じがする。そんな事が起こっているのか？。

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのです。が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。